



1916年創立
今年で103年目です

桃花だより

From TOKAJUKU

〒584-0008 大阪府富田林市喜志2067番地 TEL.0721-23-2076 [E-mail] tokajuku@m3.kcn.ne.jp [URL] https://www.tokajuku.com/

今回のピックアップ部署 第二成人部



この春も第二成人部ではたくさんの行事がありました。3月には調理実習で簡単ティラミスを作りました。4月には「さくら祭り野点の会」で第二成人部の男性の茶華道部員が初めて大勢の人に自分の立てたお抹茶を飲んでもらう機会となりました。お招きした皆さんに「結構なお点前でした」と言われ、笑顔になっていました。

5月の社会見学は5グループに分かれて楽しみました。観心寺のさくら祭りグループは楠木正成の銅像の前で記念撮影。USJグループは行く前から楽しみでテンションはすでにMAXに。金剛山グループは庭園をみながら蕎麦会席を堪能しました。関ヶ原古戦場に行ったグループは、いにしへの歴史の舞台に立つと、徳川家康、小早川秀秋や石田三成、大谷刑部などの武将と同じ空気を感じて思わず「おお〜っ」と感嘆の声が上がりました。淡路島グループは花と美味しいものを求め地産地消、その地に行かないと食べられない物などしっかりと満喫してきました。

他にもバーベキューをしてスタッフシェフ特製のナポリタンと韓国風パスタ、お肉に野菜のチーズ焼きなどを食べ、お腹いっぱい、笑顔もいっぱいになりました。



ももかちゃんコーナー

ももかちゃんは4月7日に堺市都市緑化センターで開催された『さくらフェスタ』に参加しました。桃花塾スタッフのバンド・ピーチボーイズとステージでライブを披露!そして、ももかオリジナルの『ももか音頭』を緑化センターのゆるキャラ・ポピアンちゃんとコラボして踊りました。たくさんの人と楽しんだボカボカ陽気の一日でした。



社会福祉法人大阪府共同募金会より配分金を頂戴いたしました

社会福祉法人大阪府共同募金会より、今春、中学校・高等学校へ進学する入所児に対して、平成30年度NHK歳末たすけあい義援金配分金による入進学祝金の配分を受けました。これは、平成30年度NHK歳末たすけあい配分金(平成29年度NHK歳末たすけあいによる)による配分金事業です。

配分額:29,000円
(小・中学部進学1名、高等部進学2名)
受領日:平成31年3月29日

共同募金にご協力下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。

後援会入会案内

当法人では、当後援会の趣旨にご賛同いただき、ご支援くださる会員を募集しております。ぜひ当後援会に入会して、私たちの活動にご協力いただけないでしょうか。

◆会費/1口 500円 ◆賛助会費/1口 2,000円

事務局:〒584-0008 大阪府富田林市喜志2067 社会福祉法人 桃花塾内

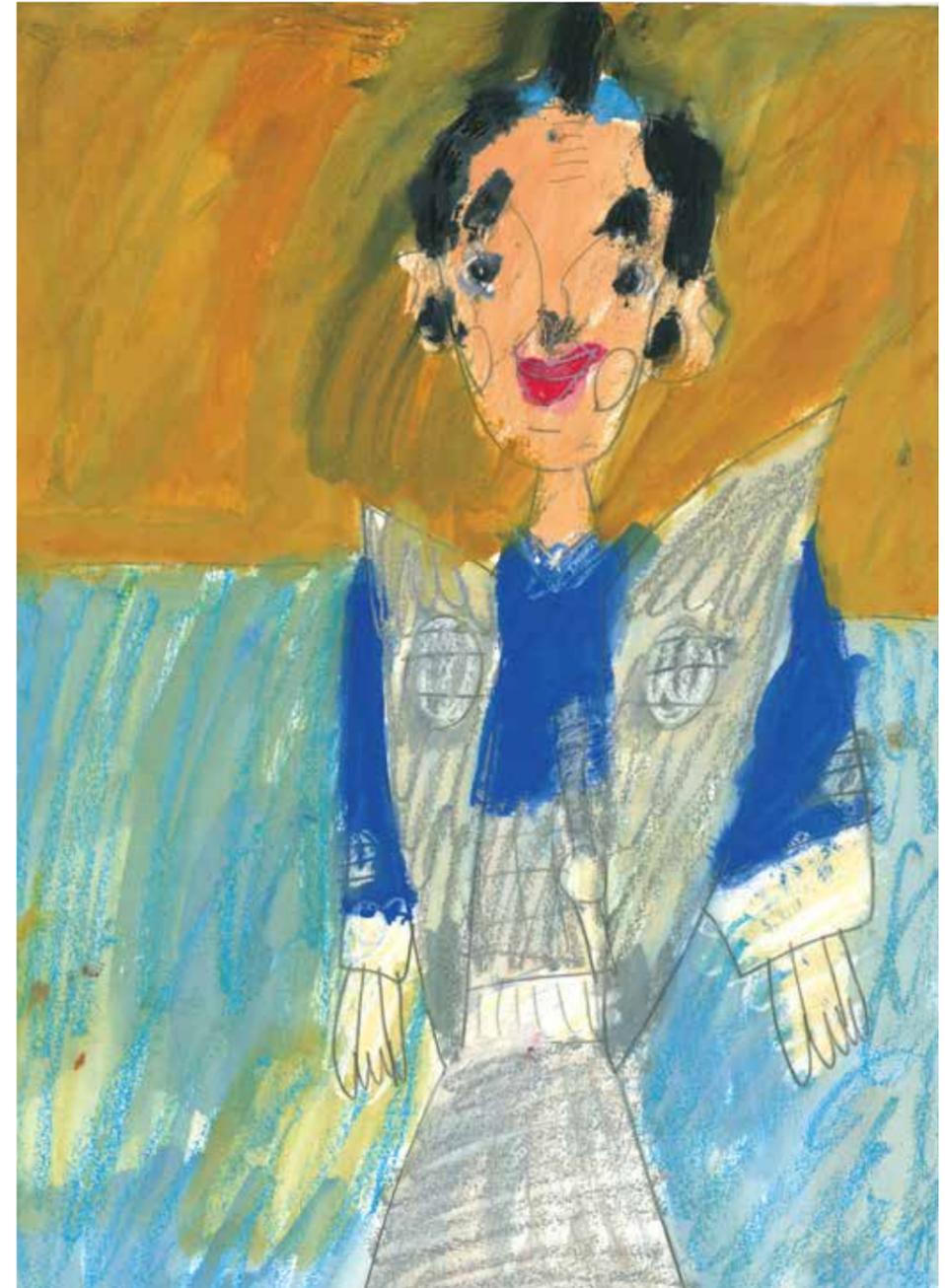
TEL.0721-23-2076

(郵便振替)00940-4-6114

編集後記

桃花塾では溝口造園の方に来ていただき約2週間をかけて大規模な庭園整備を行いました。生い茂っていた木々の伐採や大木の不要な枝を掃っていただき、夏を迎える前にすっかり涼しげに、本来の庭園の姿になりました。見晴らしが良く、以前より広く感じます。去年の台風ではたくさんの木が倒れる被害がありましたが、防災のためにも重要な整備です。 編集担当 竹下桂子

令和元年5月31日発行 「桃花だより」第49号 発行元:社会福祉法人 桃花塾



伊藤 学さん 作

春を楽しみました

～各部署より～

児童部

ゴールデンウィーク後半の5月4日、少し暑いぐらいでしたがお天気にも恵まれ、児童部では昨年に引き続き城山オレンヂ園に出かけました。まずはメインイベントのバーベキューです。お肉に野菜に焼きそばなど、楽しく焼きながらみんなお腹いっぱい食べました。満腹になった後は、何をしようかとみんなウキウキです。魚釣りやザリガニ釣り、的当て、アスレチック、卓球、散策など盛りだくさんのアクティビティの中から好きなことを選び、思い思いに存分に楽しむことができました。おやつにアイスクリームも食べて大満足で帰ってきました。これからゴールデンウィークの恒例行事になりそうです。



通所部



通所部では冬のチューリップ栽培の後のハウスと土の再利用ということでいちごを栽培しています。3月に少しずつ収穫できるようになり、きらきらと大きく実ってきました。ハウス内の温度管理と水やりを欠かさず、大事に大事に育てたいちごはとても甘く美味しく育ちました。美味しく育ったせいなのか、動物に食べられてしまう被害も……。販売ラインに乗せるにはまだまだ課題はありますが、地域販売に繋がるように頑張っています。

ほかにも通所部の農園野菜の人気品目として原木栽培の椎茸があります。菌床とはひと味違う美味しい椎茸です。里山保全で切り倒した木に穴を開け、4月に椎茸の菌打ち作業を行いました。一年後の秋には美味しく実りますので、少し先になりますがご期待ください。

ピーチネット

富田林市内の放課後等デイサービス事業所が全部で18事業所になりました。こどもたちのコミュニケーションの幅を広げつつ、安心できる居場所づくりを目指している事業所、発達に応じた個別療育に特化した事業所など、それぞれ特色をもった事業所が増えています。ピーチネットではこれらの事業所間の連携を図っていくために、ネットワーク会議をスタートさせました。今後もサービスを利用される方と事業所を円滑に結び付けながら、いろいろなニーズへの支援を続けていきます。



成人部

4月23日、恒例となっている春のピーチモールがオープンしました。今回は平成最後のセールということで、春夏物の衣類に加えて小物や雑誌などの商品もいつも以上に充実させて、利用者の皆さんを迎え入れました。

商品を選んだり、スタッフやゲストのももかちゃんとの触れ合いを楽しんだり、皆さんの素敵な笑顔が見られ、充実した時間となりました。また今回は第二成人部の利用者の方も来店され、ショッピングを楽しまれました。次回は参加者の幅をもっと広

ピーチサークル

今回は桃花塾の畑で育てているチューリップがきれいに咲いていたので、みんなでチューリップを摘みに出かけました。暖かくなってきた気候に合わせていろんな植物の芽吹きを観ながら塾内の農園を歩き、チューリップ畑にたどり着きます。このチューリップはオランダから球根を取り寄せて、桃花塾のスタッフが精魂込めて育てたものです。色とりどりのチューリップが咲き誇り、初めて見た子どもたちやお母さんたちからも歓声が上がっていました。最後に好きなチューリップをハサミで切って持って帰ってもらいました。季節に合わせたプログラムでその時にしか楽しめないような大切な体験を少しずつ増やして、子どもたちの経験がさらに広がることを願っています。



げたり商品のラインナップを充実させるなど、イベントをさらに盛り上げたいと思います。5月12日には第7回目となるさつき祭りが開催されました。今年もスイートポテトのお二人にゲスト出演していただきました。今回は「霧のカレリア」というインストゥルメンタル曲も披露して下さり、お二人の新たな魅力を知ることもできました。桃花塾からはピーチボーイズがステージを披露。新たなメンバーも加わり、パワフルな演奏を聞かせてくれました。

ステージと会場が一体となって大きな盛り上がりを見せた最後に、予定外のアンコールが客席から起こり、「虹」という曲をスイートポテトとピーチボーイズのコラボレーションでお送りしました。二つのメロディーが響き合い、とても心地よい「虹」を聴くことができました。



グループホーム

グループホームは居住者の生活のベースとなるところで、毎日元気に皆さんが日中活動へ参加できるように送り出すことが主な仕事となります。これまで大きな変化がなく過ごされてきましたが、3月には居住者の加齢に伴う移動、そして4月には長く勤められていた世話人のお二人が退職され、新たな世話人が加わるなどスタッフの移動もありました。また、5月にはいちごホームの建物外装の大がかりなリフォームが行われています。皆さんは完成を楽しみにされています。自らの周辺に起こるいろいろな変化に対し、混乱もなくおだやかな日々を送られています。



ジェントルティーチング・コーナー

—桃花塾ではサービス提供の実践の基本をジェントルティーチングにしています—

対話について—続き(その3)

前回、対話についてのチェックをすることは、対話の発展のために大切であると記しました。すなわち、支援の場において、支援者は自分自身の相互作用を評価することが大切です。なかでも、相手の人が安全だと感じたり、絆を深めたり、相手の人自身、価値ある存在と認められるような相互作用をすることが特に必要です。相手の人が支援者をどのようにとらえているのか、私たちの存在をどのように感じているのかを知るためには、相手の人との相互作用の中で最も良かったと思える瞬間、あるいは最も望ましくないと思える瞬間に注目することも大切です。なにげない日常のかかわりの中で、相手の人との細やかな相互作用を評価する項目をあげました。

1. 支援者の存在を受け入れる
2. 仲間との相互作用を受け入れる
3. 支援者からのタッチを受け入れる
4. 相手にタッチしようと手を伸ばす
5. 自分から手を差し出す
6. 20分以上、支援者と一緒に過ごす
7. 20分以上、仲間と楽しく過ごす
8. 20分以上、支援者と何か課題に取り組む
9. 仲間と一緒に課題に取り組む
10. 支援者と対話する

それぞれの項目については、1～5までのステップを設定し、具体的に練習していくことが対話の発展につながります。

理事長 岩崎 正子